

東石松 盆踊り 口上

南無釈迦牟尼佛（なむ しゃかむにぶつ）

南無阿弥陀佛（なむ あみだぶつ）

南無十方一切諸佛（なむ じつぽう いっさい しょぶつ）

盆の踊りの始りを 孟蘭盆教（うらぼんきょう）を紐解いて 語り聴かせん物語

昔 釈迦のお弟子 目連尊者（もくれんそんじゃ）

御母（おんはは）永く病（やまい）に臥したまい 名医集（つど）いて
医術を尽くせど 遂にご逝去（せいきよ）遊ばさる

神通（じんづう）第一 目連尊者 天眼通（てんげんづう）にて 亡き母見れば
前世の罪の深くして 餓鬼道地獄（がきどうじごく）に落ちたまい
骨皮ばかりの姿なり

目連深く哀しみて 母の苦しみ救わんと 鉢に飯（めし）盛り持ちゆかば
食する前に燃え上がり 幾度もたちまち 火炭（ひすみ）となつて
遂に（ついに）食すること得ず

目連 驚き 泣き悲しめども 如何（いかん）とも なす術（すべ）なし

馳（は）せ還りてお釈迦様に 母救済の法を請（こ）う

佛の曰（いわ）く 汝の母は罪の根深く 汝一人の力を以て（もつて）は成し難し

聖者の道を行く者の徳は 海の如く深くて広い

安居（あんご）修行に集まれる 数多（あまた）の僧侶に布施をなし

十方衆僧（しゅうそう）の威神（いしん）の力をもつて

すなわち解脱（げだつ）を願うべし

過去七生（しちしよう）の父母（ちちはは）も、天上界に自在に生まれ
無限の快樂を得ん

目連 佛の諭し（さとし）に従つて 世界の高僧に布施をなす

この時 目連その母 たちまち一劫（いちごう）餓鬼の苦を 脱することを得たり

目連尊者喜んで ついに手の舞い 足の踏むところを知らず

多くの大菩薩衆 衆僧 皆大いに歓喜し 舞い踊る これ盆踊りの始めなり

先祖諸靈追善の 供養の一夜（ひとよ） いざいざ踊り始めなん【繰り返し】